

■ 学位論文要旨 (修士)

都市と農村における高齢者の生活実態の比較分析

—京都市東山区清閑寺霊山町と兵庫県多可町轟集落を比較して—

福田 晴 香*

日本は世界でも類を見ないほど高齢化の進行が速い。しかし、高齢化が進行するスピードは全国一律ではなく、地域によって異なっており、過去の国勢調査からは、農村部では高齢化率が高く、都市部やその近郊では高齢化率が比較的低い傾向が明らかとなっている。しかし、都市部、農村部においてもその内部で地域差が存在し、都市部でも農村部と同等の高齢化が進行している地域もある。身近な地域で言えば、京都市東山区が挙げられ、2010（平成22）年の国勢調査で高齢化率30.0%を示している。

筆者は、都市の高齢化問題に関心を寄せるようになって、地域社会の近隣関係が希薄化しているといわれている都市部では孤独死や社会的孤立のように、農村部よりも高齢化が深刻な問題を惹き起こしている事実を知った。そこで、都市部と農村部の高齢者の生活を比較すると、農村部で生活する高齢者の方が健康で幸せな生活を送っているのだろうか、あるいは長年農業に従事してきた農村部の高齢者の方が身体上の不都合が多く、農作業を行わない都市部の高齢者の方がより健康的な老後の生活を過ごしている可能性があるのではないか、との疑問を抱いたことがこの論文を執筆したきっかけである。

本論文では、調査票調査とインタビュー調査に基づいて都市部と農村部の高齢者の日常生活を比較し、社会活動量、個人活動量、家庭内活動量、家族関係、近隣関係と、健康状態との関係を分析することを目的としている。調査地の選定は、①高齢化率が同程度である

* 京都女子大学大学院 現代社会研究科
公共圏創成専攻

こと、②住民の自治活動団体が一定程度活動していること、③地域調査に協力的であることの3つの観点から次の2地点を選択した。農村部の事例としては、実地調査で2年前から関係のある兵庫県多可郡多可町加美区轟集落を選定した。都市部の事例としては、轟集落と同等の高齢化率を占める東山区の中の町内会で、卒業論文執筆時から実地調査に入っていた清閑寺霊山町を取り上げた。2010（平成22）年度の国勢調査によると、多可町の高齢化率は29.2%、京都市東山区の高齢化率は30.0%であり、両地域の高齢化率は近い数値になっている。

I章では高齢者をとりまく環境変化の中で具体的に家族類型の変化を取り上げ、高齢者の単独世帯と夫婦世帯の増加の結果、介護の担い手がどう変化したかについて述べた。我が国の世帯類型の特徴が近年どのように変化しているのか、高齢化の背景となる平均寿命や少子化はどう変化してきたのかということを中心に国勢調査を元に確認した。さらに、高齢化進行の背景としての少子化や平均寿命の延伸を取り上げ、それらの変化についても統計に基づき確認した。家族が介護の機能を担うことが困難になった現在、社会保障費の増大を防ぐためには健康で障害のない生活を送れる時間を1日でも長く保つことが望まれている。そのためには余暇活動や生きがいが必要であるとの観点から、生きがいをみつけて社会で活躍する高齢者の事例を紹介した。

II章では、2つの調査地の概要を比較考量した。自然的環境としては気象と地理を、社

会的環境としては住宅、駐車スペースの有無、公共交通機関の便、医療機関へのアクセス、買い物の便を取り上げた。また、それぞれの地域の自治組織の活動内容を示した。また、轟集落においては、集落で運営を行う特定非営利組織北播磨ラベンダー（ラベンダーパーク多可）が存在する。このラベンダーパーク多可の概要や住民とラベンダーパーク多可との関わり、実際にラベンダーパーク多可で活動している女性グループの活動内容から、ラベンダーパーク多可の存在が地域住民に果たす役割も考察した。

III章では京都府東山区清閑寺霊山町、兵庫県多可郡多可町加美区轟集落で実施した調査票調査の結果の分析を基に進め、先行研究に基づいた比較分析や、霊山町、轟集落での高齢者の日常生活を比較分析した。両地域での分析に際しては、先行研究に基づいて次の分析ファクターを選定した。社会活動量としては地域活動への参加状況を、個人活動量としては趣味活動の状況を、家庭内活動量としては家事の従事度を、近隣関係としては近隣住民との会話頻度を、家族関係としては家族内会話量を、健康状態としては通院頻度と治療を受けていない身体上の不都合の有無を取り上げた。比較・検討の結果、先行研究を支持した結果もあれば、近隣住民との会話が増えるほど地域活動量が減少するというような地域特有の傾向であると考えられる結果もあることから、高齢者の日常生活にも地域差があることが明らかになった。また、農業活動が農村部に住む高齢者の生活にどのような影響

を与えているのかを分析するために、農業活動に関わる外出頻度と健康状態の関係を検証した。その結果、農業活動での外出頻度が高い人ほど通院頻度や診察外不都合が少ないという結果になり、先行研究で示されている「農業活動を行うものは行わないものに比べて健康状態が良好である」という結果を支持するものになった。このことから、農業活動は、当初考えていたような身体への不都合を招くものではなく、むしろ身体を丈夫にしている可能性が示唆された。また、農業および家庭菜園の活動頻度が多い人ほど地域活動や趣味活動にも多く参加しているということも明らかになった。

IV章では、清閑寺霊山町、轟集落両地域からそれぞれ男女各1名、合計4名の高齢者にインタビュー調査を行い、調査票調査では明らかにならなかった住民の生活実態を検証した。質問項目としては、それぞれの地域で暮らす高齢者は地域社会とどのように関わりながら生活をしているのか、何を生きがいに生活しているのか、充実した高齢期の生活とはどのようなものであるか、都市部と農村部の暮らしは具体的にどう違うのか等である。このインタビュー調査から、都市部であっても外出や公共交通機関へのアクセスが不便な地域が存在することが明らかになった。一方、農村部は一見すると公共交通機関へのアクセスや外出に不便であると思われがちであるが、実際の生活では自動車利用によって不便さが解消されていることが明らかになった。さらに、農村部では日常生活で農業や家庭菜園に

関わる機会が多く、特に意識をしなくても一定の身体活動量が得られるということや、都市部の高齢者に比べて地域活動が活発で社会的に活動的であるということも明らかになった。その中でも、轟集落では集落が運営に関わっているラベンダーパーク多可の存在は、活動を通しての仲間作りや退職後の生きがいにも影響を与えていることがわかった。両地域に共通するのは、通院をしながらも地域活動や趣味を楽しむ高齢者は生きがいを持って生き生きと生活しているという点であった。

本論文で実施した調査票調査からは、余暇活動・個人活動量(趣味)は①両地域において家庭内活動量、家庭内会話量、近隣住民との会話量と正の関係があり、②轟集落では家庭菜園外出量、農業外出量と相関していた。社会活動量(地域行事への参加)では①家事への従事度との関係は霊山町ではなかったが、轟集落では一定程度関係していた。また②近隣住民との会話量との関係は霊山町ではみられなかったが、轟集落では関係があった。③治療を受けていない身体上の不都合の有無と社会活動量は、両地域において関係がみられた。④轟集落においては家庭菜園外出量、農業外出量との関連も見られることが明らかになった。通院に関しては、①両地域において年齢との関係は見られなかった。②家事の従事度との関係は、霊山町では家事従事が多いほど通院頻度が増加するが、轟集落では家事の従事度が少なければ通院頻度が減少した。③近隣関係については轟集落では近隣住民との会話量が多いほど通院頻度も増加するとい

うことが明らかになった。治療を受けていない身体上の不都合については、①霊山町よりも轟集落で多い、②両地域とも家事の従事度が高いほど診察外不都合が増加する、③同居家族との会話が少ない人ほど診察外不都合が減少する、④農業での外出頻度が多いほど診察外不都合も減少傾向にある、⑤家庭菜園での外出が少ない人は、多い人に比べて比較的通院頻度が少ないということが明らかになった。霊山町でのインタビュー調査結果から、霊山町では地域行事への参加率が低下している、役員の引き受け手がなく同じ人が十年以上も引き受けている、地域住民との交流は昔に比べて少なくなっている、というように、近隣住民同士の交流や地域活動が低調化傾向にある発言が目立った。轟集落でのインタビュー調査では、集落でグランドゴルフが流行している、人と交流することが楽しい、地域行事は情報交換の場である、近隣住民には感謝している等、近隣住民や他者との交流が日常的に行われ、地域行事も活発であると理解できる発言が目立った。また、先行研究で明らかにされているように、本論文においても農業は健康に良い影響を与えていることが実証された。加えて、農業および家庭菜園での活動頻度が高いほど地域活動や趣味活動への参加も多いということが分かった。農業や家庭菜園活動は、これらの活動を通して仲間づくりや生きがいを見つけることができるものとして着目すべき活動である。農村部での生活は都市部に比べて社会活動が量的にも種類においても豊富であり、日常生活での身体

活動量も豊かである。以上のことから、本論文では農村部での生活は充実した高齢期を過ごすためにより適しているということができるといふ結果が導かれた。さらに、健康寿命の維持・延伸に影響を及ぼす要素は、調査票調査結果から明らかとなった社会環境要因に加えて、インタビュー調査で明らかにされた個人の生き方の二つの要素があることが明らかとされた。